

2022・5

柏の景気情報

令和4（2022）年5月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和4年5月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

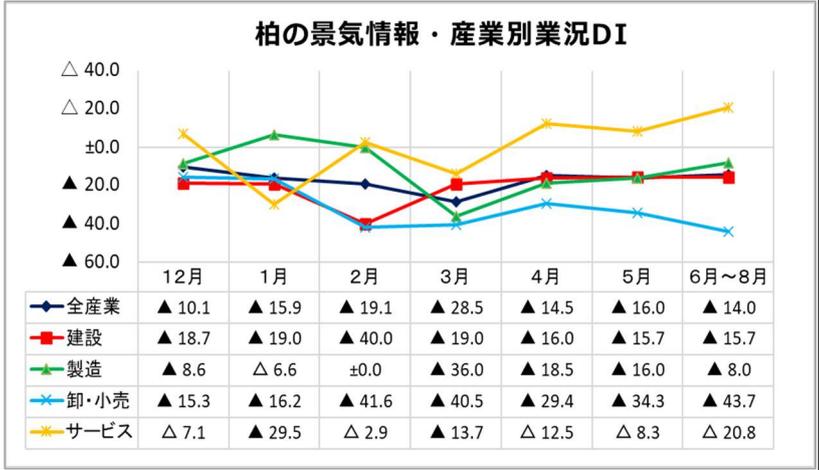
調査期間: 令和4年5月25日～6月6日 調査対象: 柏市内145事業所及び組合にヒアリング、回答数100

全産業DIはやや悪化。人流の増加が見られ、先行きは持ち直しに期待感あり。ただ、コスト上昇による採算悪化に懸念

5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲14.5)となり、マイナス幅が1.5ポイント拡大した。

DI値が改善した建設業、製造業からは、夏場の人出不足の懸念や、飲食店の制限解除に伴って酒類製造の売上が上昇などのコメントが寄せられた。また、売上が増加しても仕入単価の上昇が続き利益の確保が困難との声が、様々な業種から寄せられた。加えて、外国のロックダウンや円安による製造や輸入への影響についての声も大きい。

先行きDIは▲14.0(今月比+2.0)。人流の増加で先行きは持ち直しに期待感が見られるが、コスト上昇による採算悪化への懸念あり。



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「商品仕入価格が高騰(土木工事)」、「原油高騰の影響で、畳表や畳床、畳縁すべて仕入単価上昇(畳)」、「仕入価格上昇がいまだに続き、取引先に価格改訂をお願いしても改善なし。マイナスにならなくても利益幅が少なくなっていく。また、従業員の定着は難しく、これからの暑い時期は外仕事の人手不足を予想」(とび)



「上海や北京のロックダウンで部品が顧客先に入らず、一時的に製造ストップ」(金属素形材製品)、「飲食店の制限解除で売上上昇(酒類)」、「原材料、仕入価格の高騰の中、製作施工にアイデアを提供しながら発注先とのコミュニケーション対応で継続している」(印刷)、「コロナ対応でテレワークを導入し、会社に縛られない、ワークライフバランスへの対応として社員が活用している。原燃料の価格高騰で、徹底した改善と効率化でコストダウンをするしかない」(鉄鋼)、「SDGsやカーボンニュートラルの観点から、太陽光発電システムへの設備投資を行なった。昨年度中に稼働予定だったが、パネルの設置は終わっているのに半導体不足で蓄電用のバッテリーが間に合わず。バッテリーの入荷は8月以降の予定だが、ロシア・ウクライナ情勢の悪化と長期化で電気代、燃料費が高騰、収益を圧迫し始めているので、一刻も早く入荷してほしい」(自動車付属品)「売上が増加しても、仕入単価が毎月のように上昇していて利益確保が困難」(金属製品)



「食用水産物の50%を輸入に頼る日本では、この円安は単価を大きく押し上げ、売上は昨対比増も取扱数量、利益が大幅減少(水産物卸売)」、「上海のロックダウンで、新車、部品の供給が停滞。中古車、レンタルに悪影響で早く解除してほしいが、出荷待ちの荷物が溜まっていて簡単には改善しそうにない」(産業機械器具卸売)、「例年GW明けは売上が落ちるが、例年より下落幅が大きい」(洋菓子店)、「コロナ禍も3年目となり、新たな生活様式に沿った事業が課題。売上は堅調だが、昨今の物価高騰で包装資材などが上昇(畜産物・水産物卸売)」、「キャッシュレスが進み、現金収入減(洋菓子店)」、「テナントでは、原材料高騰に伴う価格改定が発生。飲食業界は夜間需要の回復が途上(各種商品小売)」、「仕入価格や光熱費等が上昇し、飲食店では多少の値上げは避けられなかった。これからが本番と言われても、どのタイミングの値上げが適正なのかかわからない」(各種商品小売)、「値上げのニュースにより、一部のお客様に多少の買い込みがみられた。外出に対して抵抗がなくなりつつあるので、お客様の来店時間の流れが変わってきた」(大型小売店)



「地域の活気回復にイベントは効果があるが、人の密に抵抗感がある間は無理だろう。この状況が続き伝統的・文化的行事が減り、地域の繋がりが無くなる状況を懸念する」(イベント・レンタル)、「2024年より、運送業界でも時間外勤務上限規制が開始。ドライバーを勤怠管理する必要がある」(一般貨物自動車運送)、「接待、宴会需要は戻らず、コロナ前比でマイナス。人手不足と席数減で週末も大きく伸びず、原材料高騰も深刻」(日本料理)、「コロナによる一斉休校で入学後2か月通学できなかった中学生が今年受験だが、この学年の入塾者が増えない。受験生の授業料の影響は大きく、売上が厳しくなりそう。他の学年の集客は例年通り」(学習塾)、「住設機器や資材高騰で建築費が値上がり。売り物件が減っているため土地価額も上昇。目先の取引は堅調」(不動産管理)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲20.4で柏の方がマイナスが場が4.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.0	 ▲ 15.7	 ▲ 16.0	 ▲ 34.3	 8.3
CCI-LOBO	 ▲ 20.4	 ▲ 31.3	 ▲ 15.4	 ▲ 31.8	 ▲ 9.3
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 4.0	 ▲ 10.5	 4.0	 ▲ 6.2	 ▲ 4.1
CCI-LOBO	 ▲ 6.6	 ▲ 25.6	 2.4	 ▲ 17.8	 3.4
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.0	 ▲ 15.7	 ▲ 28.0	 ▲ 28.1	 ▲ 8.3
CCI-LOBO	 ▲ 25.5	 ▲ 33.9	 ▲ 26.5	 ▲ 32.2	 ▲ 17.7
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 71.0	 ▲ 63.1	 ▲ 96.0	 ▲ 68.7	 ▲ 54.1
CCI-LOBO	 ▲ 72.0	 ▲ 84.2	 ▲ 80.0	 ▲ 65.9	 ▲ 60.0
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.0	 10.5	 16.0	 15.6	 20.8
CCI-LOBO	 16.3	 26.8	 10.2	 10.2	 21.2
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.0	 ▲ 5.2	 ▲ 20.0	 ▲ 25.0	 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 16.2	 ▲ 11.0	 ▲ 14.0	 ▲ 23.5	 ▲ 17.9

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(5月速報)

調査期間：2022年5月16日～20日

調査対象：全国の332商工会議所が2,583企業にヒアリング調査を実施

全国の業況
業況DIは、活動回復で個人消費が持ち直し、改善。先行きは、価格転嫁が追いつかず、厳しい見方

5月の全産業合計の業況DIは、▲20.4と、前月から+5.3ポイントの改善。3年ぶりの行動制限のないゴールデンウィークで人の流れは回復に向かい、外食・宿泊関連のサービス業、百貨店・土産品販売等の小売業で業況が改善した。また、個人消費の回復により、卸売業も業況が改善した。一方で、資源・資材価格の高騰・供給不足の長期化により、製造業は改善するもその動きは鈍く、建設業では業況悪化が継続した。資源・資材価格の高騰スピードは速く、増加したコストに見合う価格転嫁は行えていない。価格転嫁の遅れは引き続き企業の収益回復の足かせとなっているものの、活動回復による個人消費の持ち直しに下支えされ、中小企業の景気感は改善の動きが見られた。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.6(今

月比▲3.2ポイント)と悪化を見込む。需要喚起策や水際対策の緩和等でさらなる活動活性化に期待感がうかがえるも、個人消費の停滞を不安視する声が増え、サービス業や小売業、卸売業を中心に多く聞かれた。また、長期化するロシアのウクライナ侵攻や中国のゼロコロナ政策による資材供給の乱れや、資源・資材価格の高止まりに企業の価格転嫁は追いついておらず、業況悪化が懸念されており、先行きは厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業は悪化、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「資源価格の上昇、建築資材の高騰が続いている。工事を受注しても、建築機械の納期が遅れ、工事期間が長期化している。赤字受

注になりかねないため、受注を足踏みすることもあり、厳しい状況が続く」(一般工事業)、「民間の建築案件が激減しており、競合他社との受注競争が激化している。採算割れ覚悟で受注する事態も起きている」(建築工事業)

【製造業】「少しずつ消費者の意識が活動的になっており、売上にも結び付いている。コロナ禍で生まれた新しい需要を事業に反映し、今後も売上改善を図っていく」(酒類製造業)、「仕入れコストの増加が著しいが、採算の厳しい製品については、客先に事情を話して販売価格へ反映を行っている」(金属加工機械製造業)

【卸売業】「食料品や飲料の需要は回復してきている。一方で、仕入価格の上昇や包装資材の値上げは継続しており、販売価格への転嫁対応に迫られている」(食品・飲料卸売業)、「中止になっていたイベントが実施され始めたため、消費意欲の回復による売上増加を期待する」(衣服・日用品卸売業)

【小売業】「ゴールデンウィークでのお出かけが増加したことに加え、5月は天候・気温も安定していたため、春物や夏物を中心にアパレル製品の需要が増えた。昨年と比較しても、堅調に推移しており、今後の消費にも期待する」(婦人服小売業)、「久しぶりに行動制限のないゴールデンウィークで観光客が増加したことで、土産品や飲食関係の売上が増加した」(百貨店)

【サービス業】「客足も戻り、売上が増加。業況も改善に向かっている。原油価格の高騰によるコストアップは注視している必要があるが、来月以降も好転が継続していく見込みである」(宿泊業)、「コロナ禍も収束の傾向が見受けられ、ゴールデンウィークには客足も伸び、外食産業に良い影響が出てきた」(飲食店)

全国・産業別業況DIの推移

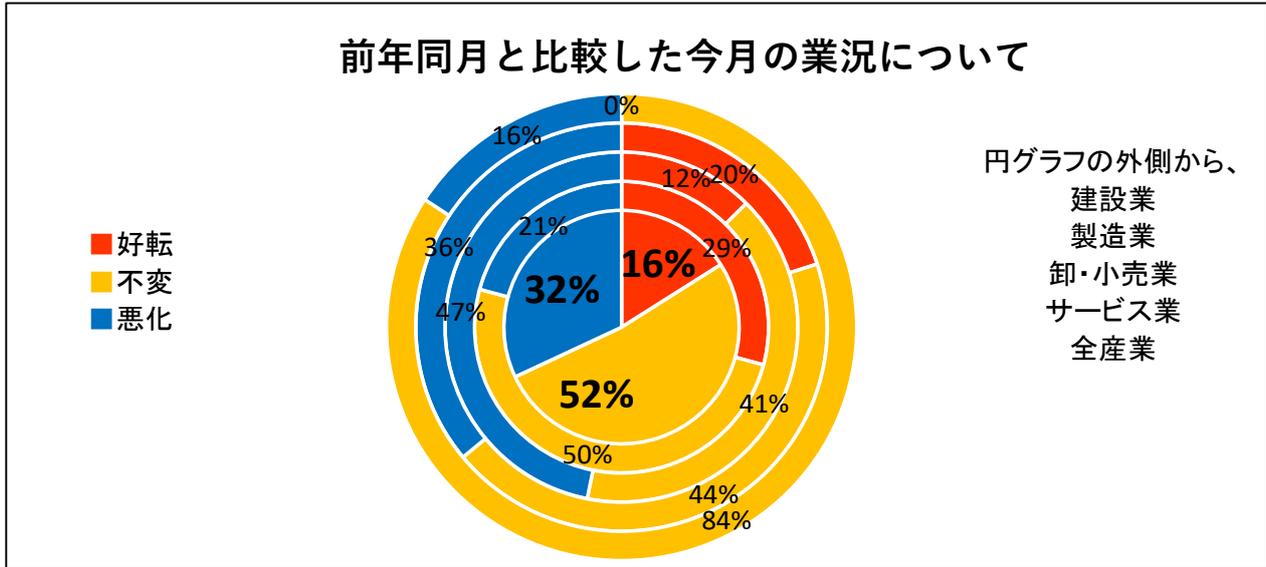
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲15.8	▲16.3	▲9.3	▲11.6	▲30.0	▲12.5
1月	▲18.2	▲21.5	▲6.9	▲18.1	▲26.7	▲20.4
2月	▲33.9	▲22.9	▲21.1	▲38.2	▲43.8	▲43.2
3月	▲32.7	▲23.6	▲25.0	▲33.3	▲40.9	▲39.0
4月	▲25.7	▲27.0	▲17.0	▲28.3	▲39.5	▲21.1
5月	▲20.4	▲31.3	▲15.4	▲20.2	▲31.8	▲9.3
見通し	▲23.6	▲27.7	▲22.2	▲25.3	▲35.1	▲12.7

令和4年（2022年）5月の動向

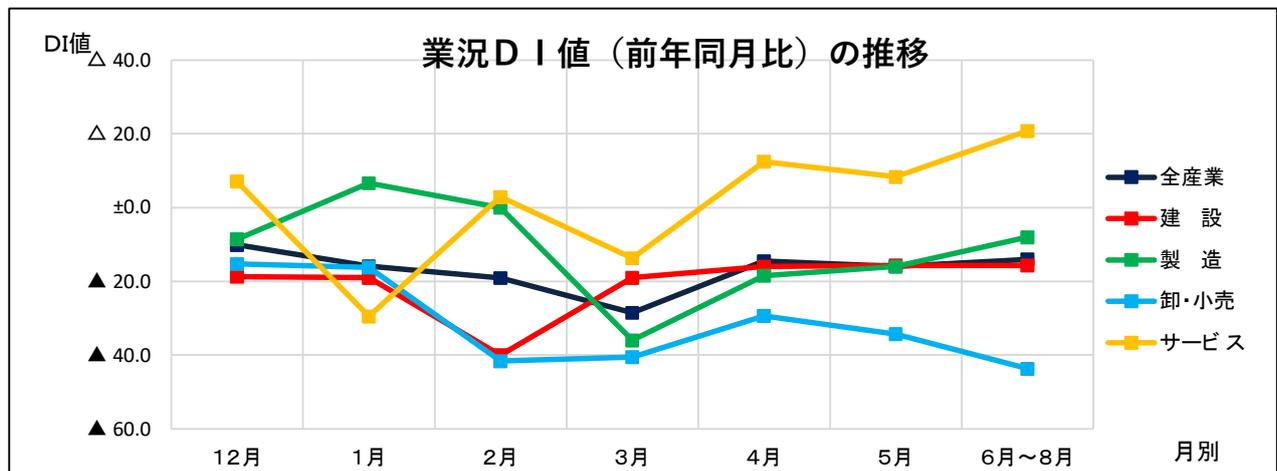
【業況について】

- 5月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲16.0（前月水準▲14.5）となり、マイナス幅が1.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（6月から8月）の先行き見通しについては、全産業では、▲14.0（前月水準▲17.2）となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小する見通しである。



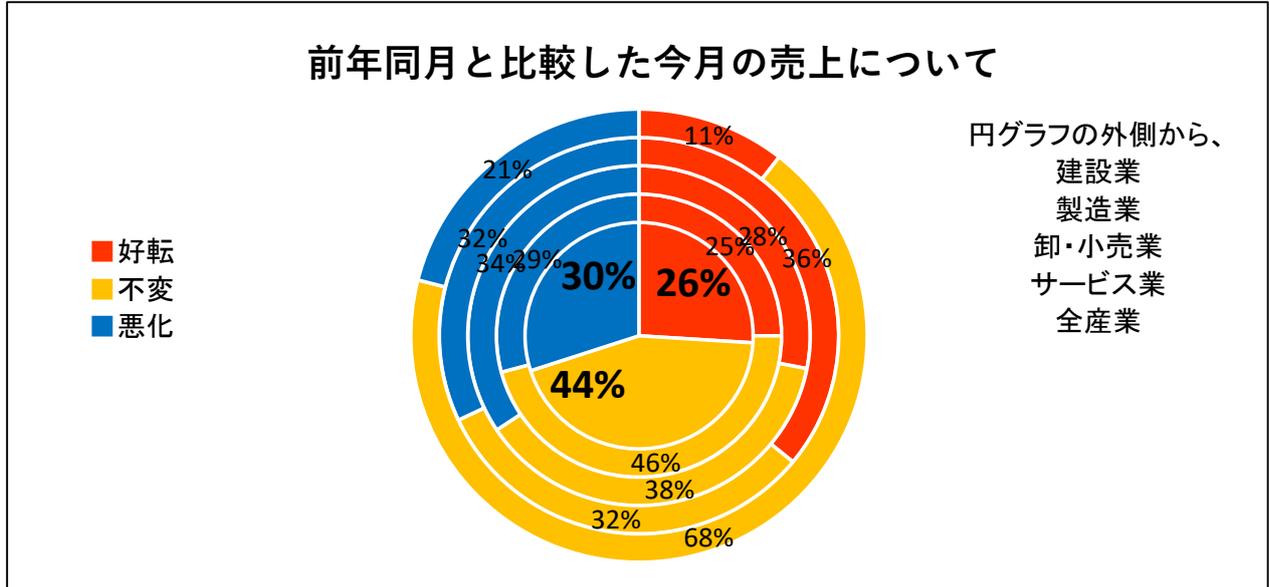
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年	令和4年					先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月～8月（5月～7月）
全産業	▲10.1	▲15.9	▲19.1	▲28.5	▲14.5	▲16.0	▲14.0（▲17.2）
建設	▲18.7	▲19.0	▲40.0	▲19.0	▲16.0	▲15.7	▲15.7（▲20.0）
製造	▲8.6	△6.6	±0.0	▲36.0	▲18.5	▲16.0	▲8.0（▲25.9）
卸・小売	▲15.3	▲16.2	▲41.6	▲40.5	▲29.4	▲34.3	▲43.7（▲35.2）
サービス	△7.1	▲29.5	△2.9	▲13.7	△12.5	△8.3	△20.8（△20.8）



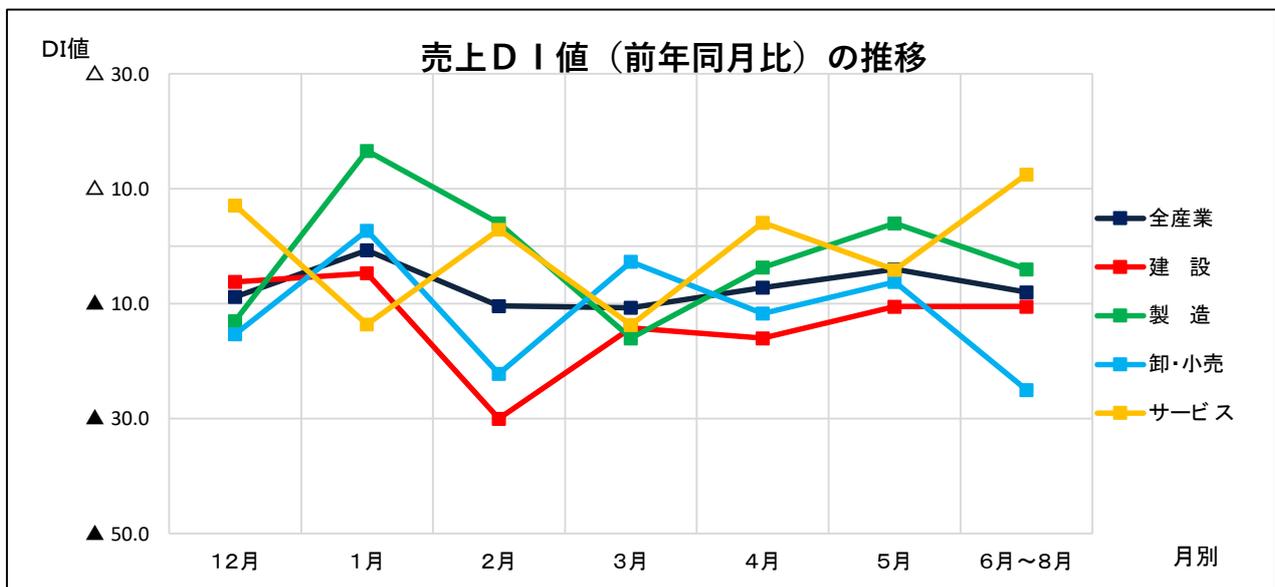
【売上について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.0(前月水準▲7.2)となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.0(前月水準▲7.2)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大する見通しである。



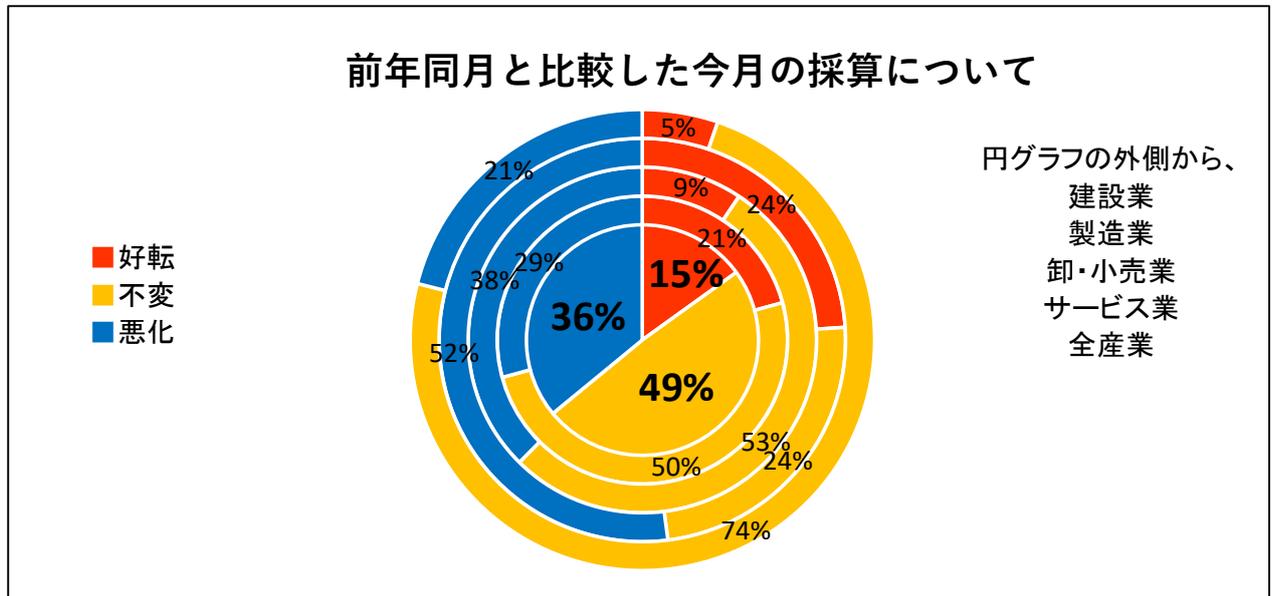
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年	令和4年					先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月~8月(5月~7月)
全産業	▲8.8	▲0.7	▲10.4	▲10.7	▲7.2	▲4.0	▲8.0(▲7.2)
建設	▲6.2	▲4.7	▲30.0	▲14.2	▲16.0	▲10.5	▲10.5(▲4.0)
製造	▲13.0	△16.6	△4.0	▲16.0	▲3.7	△4.0	▲4.0(▲14.8)
卸・小売	▲15.3	△2.7	▲22.2	▲2.7	▲11.7	▲6.2	▲25.0(▲29.4)
サービス	△7.1	▲13.6	△2.9	▲13.7	△4.1	▲4.1	△12.5(△29.1)



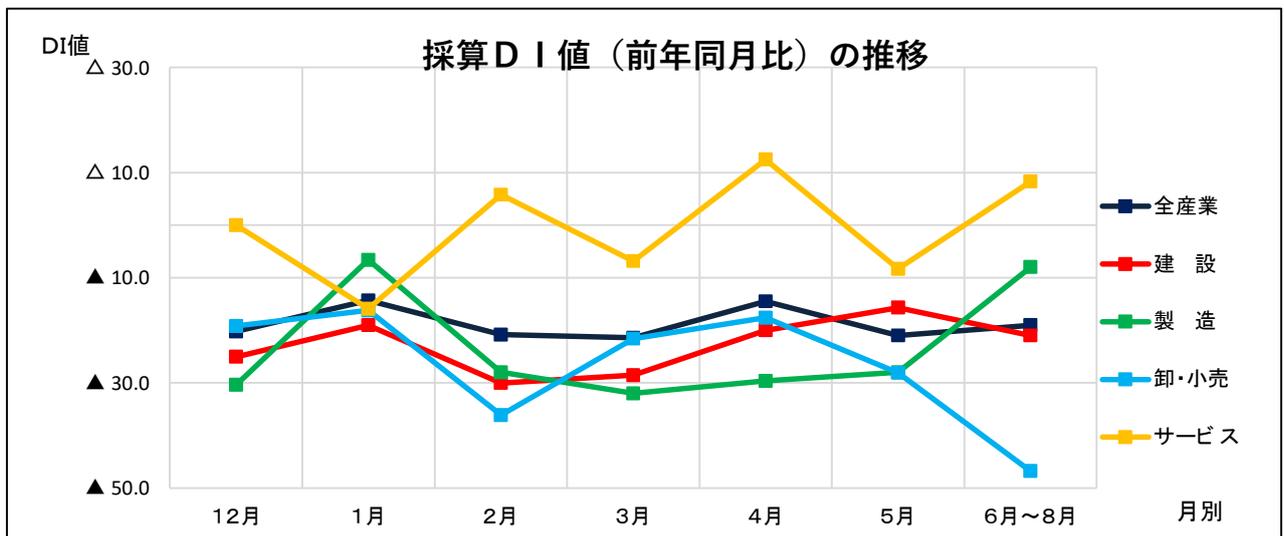
【採算について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.0(前月水準▲14.5)となり、マイナス幅が6.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.0(前月水準▲24.5)であり、マイナス幅が5.5ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

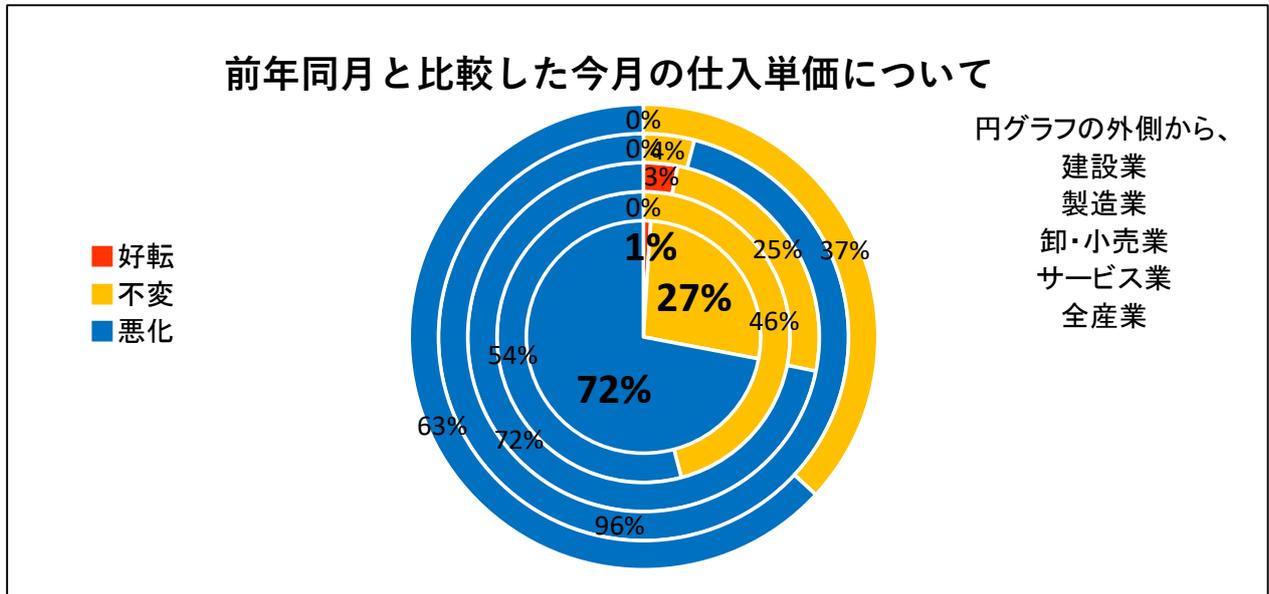
	令和3年	令和4年					先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月~8月(5月~7月)
全産業	▲20.2	▲14.3	▲20.8	▲21.4	▲14.5	▲21.0	▲19.0(▲24.5)
建設	▲25.0	▲19.0	▲30.0	▲28.5	▲20.0	▲15.7	▲21.0(▲16.0)
製造	▲30.4	▲6.6	▲28.0	▲32.0	▲29.6	▲28.0	▲8.0(▲44.4)
卸・小売	▲19.2	▲16.2	▲36.1	▲21.6	▲17.6	▲28.1	▲46.8(▲41.1)
サービス	±0.0	▲15.9	△5.8	▲6.8	△12.5	▲8.3	△8.3(△12.5)



【仕入単価について】

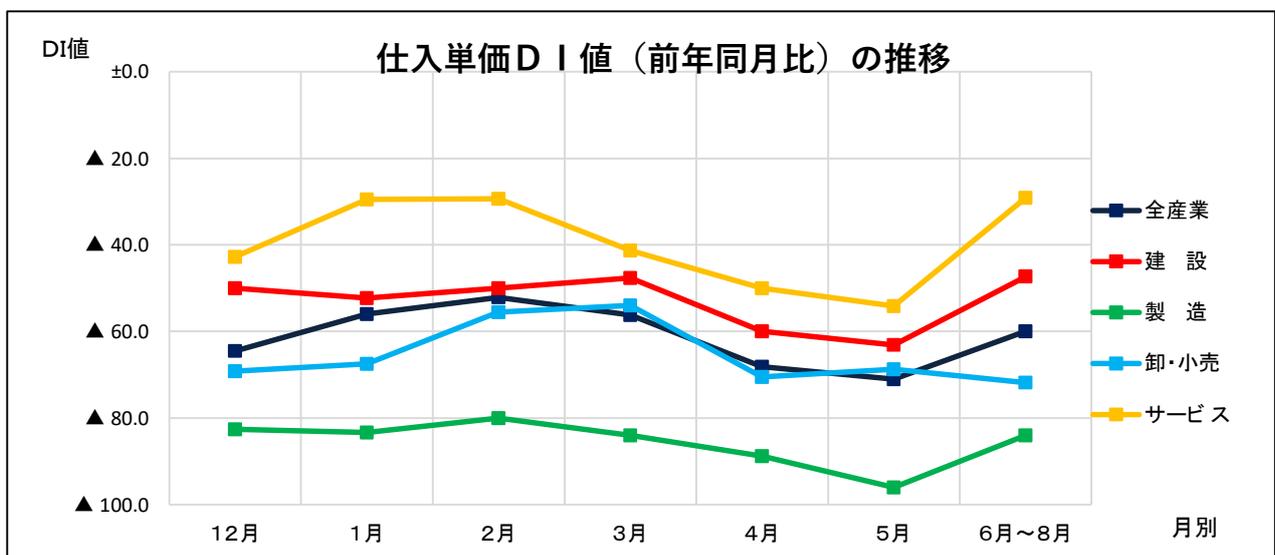
○ 5月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲71.0(前月水準▲68.1)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲60.0(前月水準▲66.3)となり、マイナス幅が6.3ポイント縮小する見通しである。



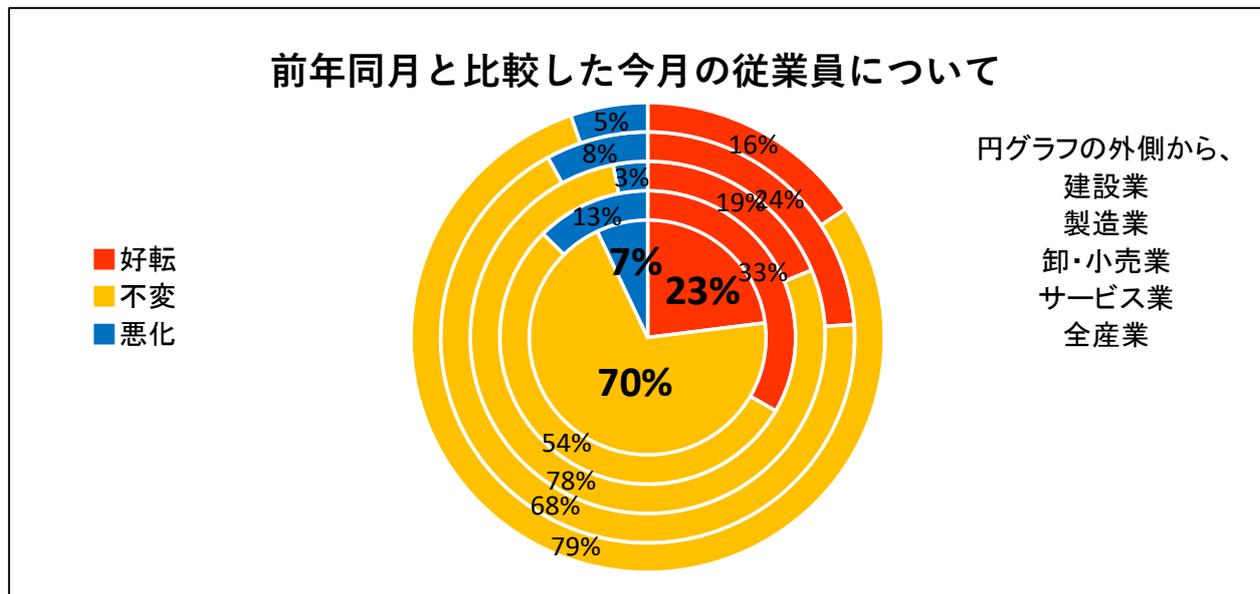
仕入単価D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和3年	令和4年						先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月~8月(5月~7月)	
全産業	▲64.5	▲56.0	▲52.1	▲56.2	▲68.1	▲71.0	▲60.0(▲66.3)	
建設	▲50.0	▲52.3	▲50.0	▲47.6	▲60.0	▲63.1	▲47.3(▲68.0)	
製造	▲82.6	▲83.3	▲80.0	▲84.0	▲88.8	▲96.0	▲84.0(▲81.4)	
卸・小売	▲69.2	▲67.5	▲55.5	▲54.0	▲70.5	▲68.7	▲71.8(▲73.5)	
サービス	▲42.8	▲29.5	▲29.4	▲41.3	▲50.0	▲54.1	▲29.1(▲37.5)	



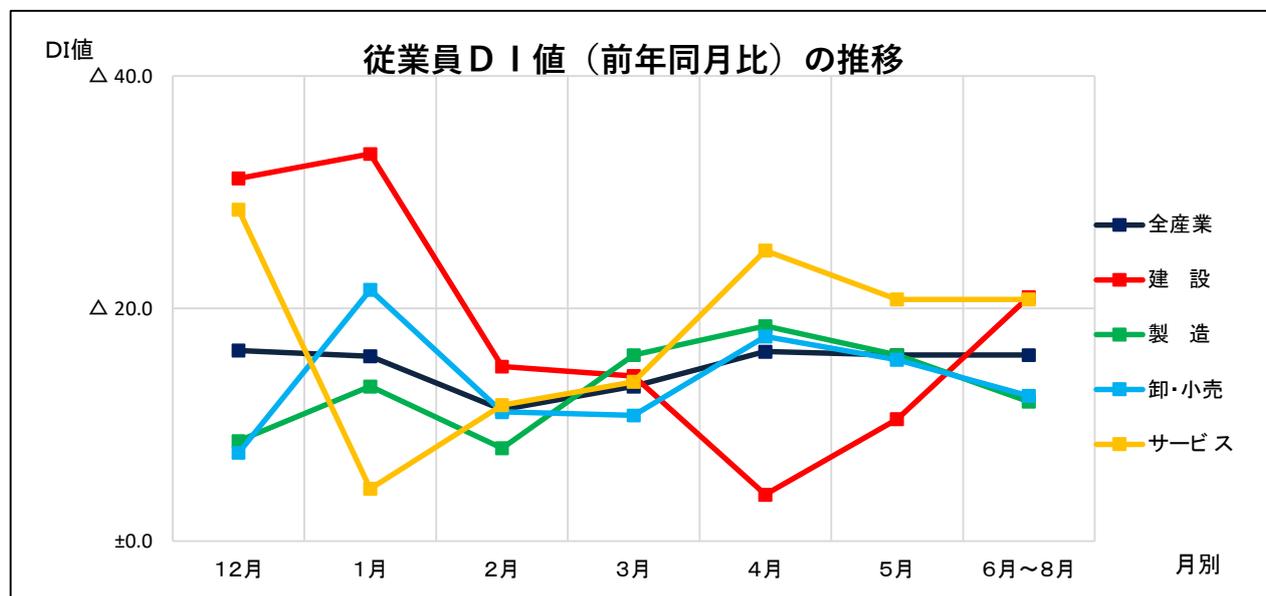
【従業員について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△16.0(前月水準△16.3)となり、プラス幅が0.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.0(前月水準△18.1)となり、プラス幅が2.1ポイント縮小する見通しである。



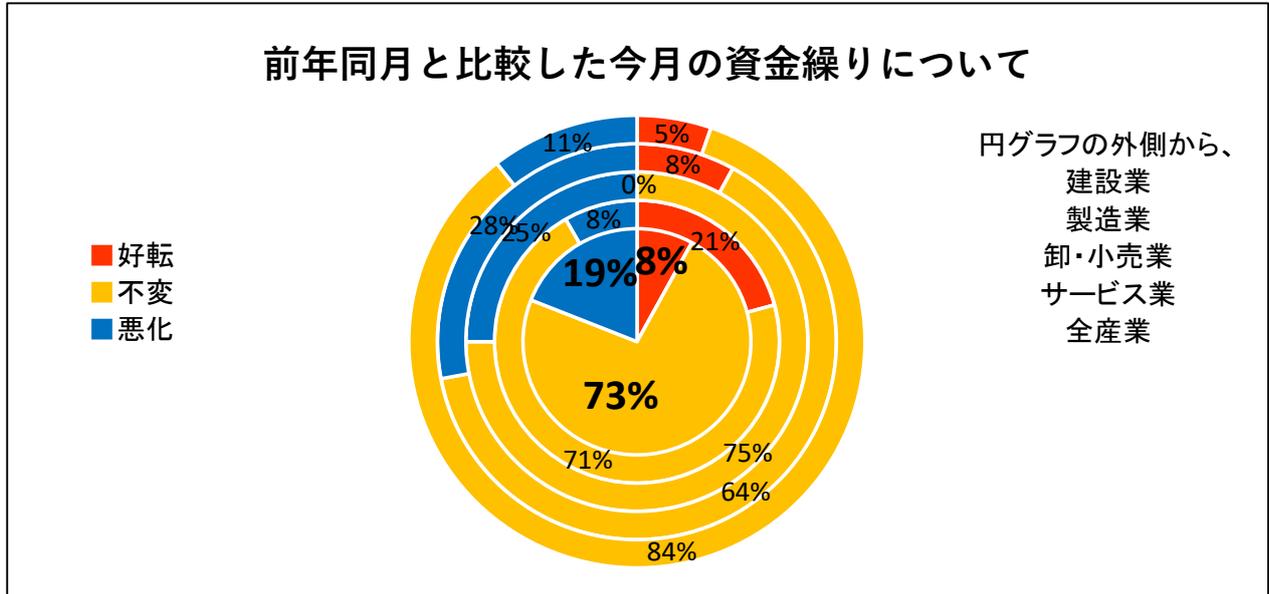
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年	令和4年	2月	3月	4月	5月	先行き見通し
	12月	1月					6月~8月(5月~7月)
全産業	△16.4	△15.9	△11.3	△13.3	△16.3	△16.0	△16.0(△18.1)
建設	△31.2	△33.3	△15.0	△14.2	△4.0	△10.5	△21.0(△20.0)
製造	△8.6	△13.3	△8.0	△16.0	△18.5	△16.0	△12.0(△14.8)
卸・小売	△7.6	△21.6	△11.1	△10.8	△17.6	△15.6	△12.5(△11.7)
サービス	△28.5	△4.5	△11.7	△13.7	△25.0	△20.8	△20.8(△29.1)



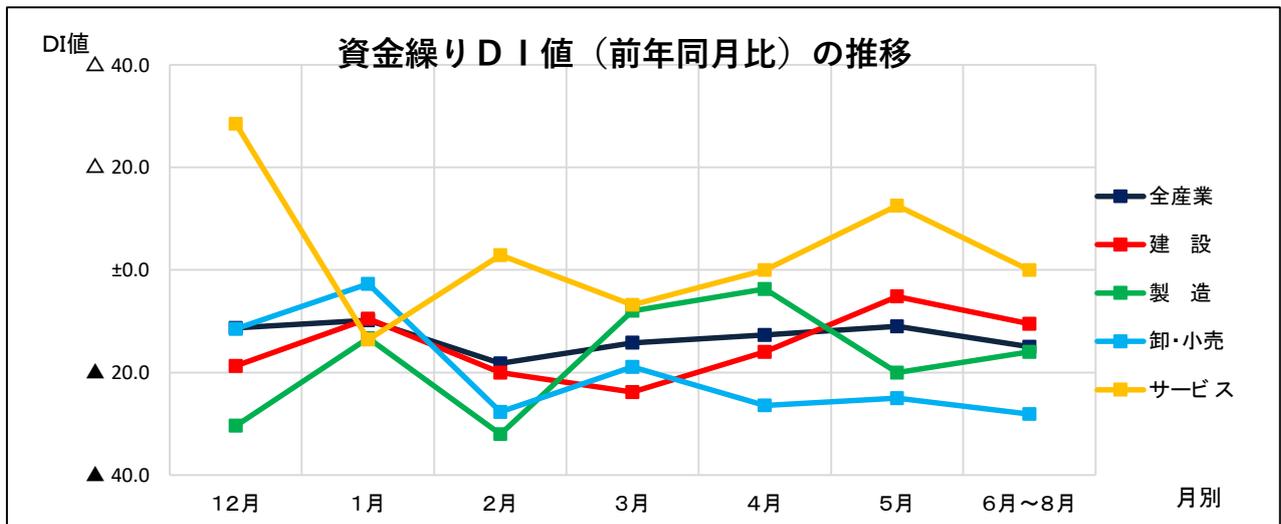
【資金繰りについて】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.0(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が1.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.0(前月水準▲17.2)となり、マイナス幅が2.2ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年	令和4年	2月	3月	4月	5月	先行き見通し
	12月	1月					6月~8月(5月~7月)
全産業	▲11.3	▲9.8	▲18.2	▲14.2	▲12.7	▲11.0	▲15.0(▲17.2)
建設	▲18.7	▲9.5	▲20.0	▲23.8	▲16.0	▲5.2	▲10.5(▲12.0)
製造	▲30.4	▲13.3	▲32.0	▲8.0	▲3.7	▲20.0	▲16.0(▲18.5)
卸・小売	▲11.5	▲2.7	▲27.7	▲18.9	▲26.4	▲25.0	▲28.1(▲29.4)
サービス	△28.5	▲13.6	△2.9	▲6.8	±0.0	△12.5	±0.0(▲4.1)

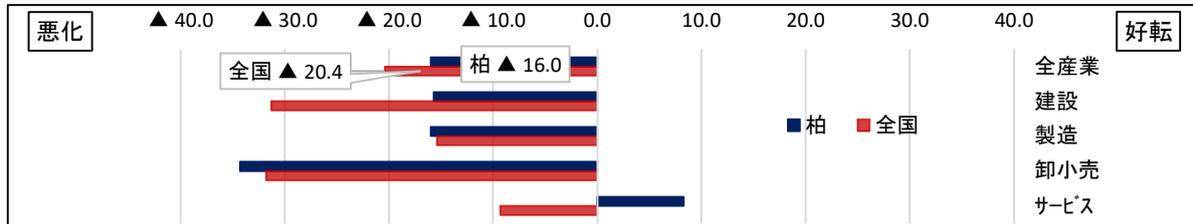


全国（CCI-LOBO）との比較

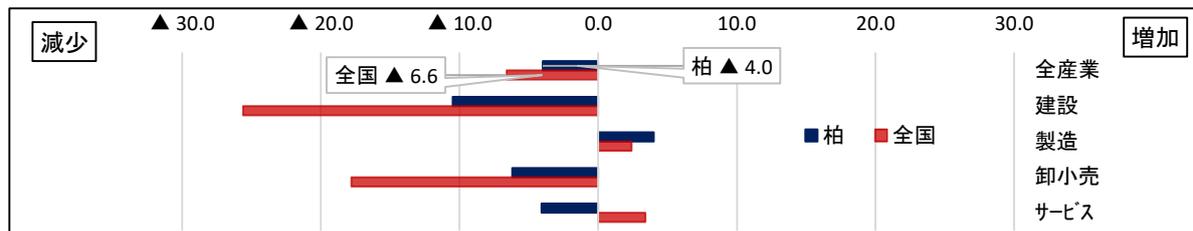
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

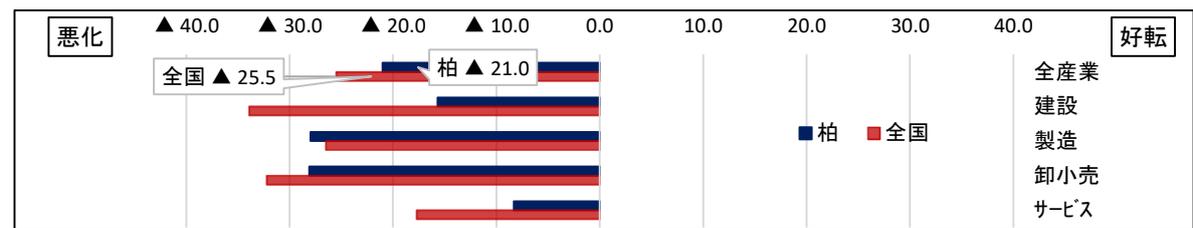
【業況DI】



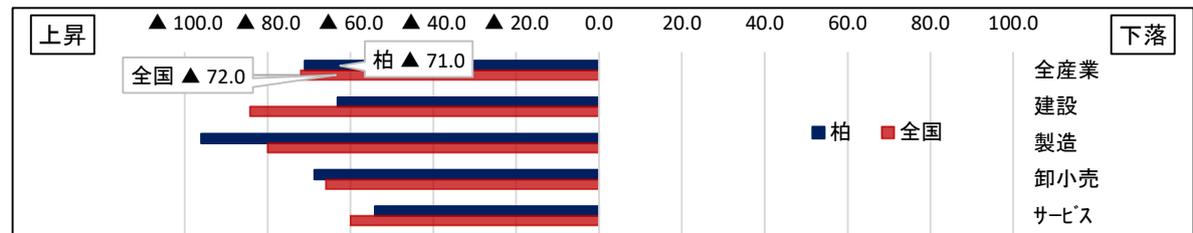
【売上DI】



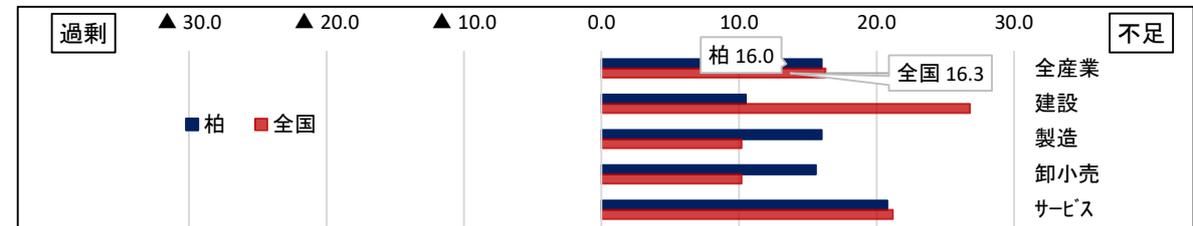
【採算DI】



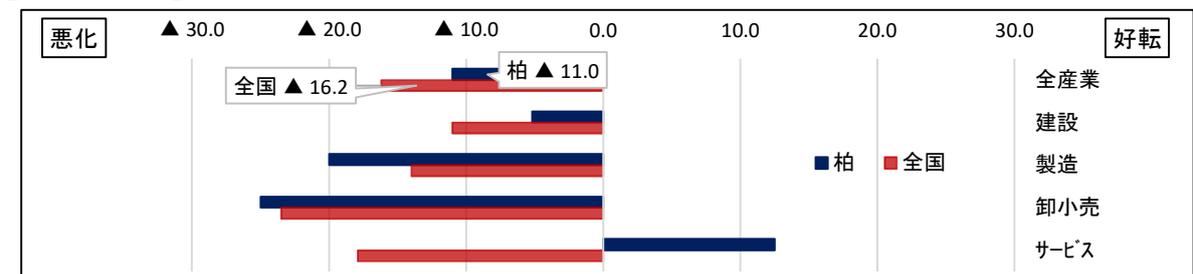
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	商品仕入価格が高騰。	土木工事業
	原油高騰の影響で畳表や畳床畳縁すべて仕入れ単価上昇。	畳工事請負・畳製造販売業
	仕入価格上昇がいまだに続き、取引先に価格改訂をお願いしても改善が見られず、マイナスにはならずともますます利益幅が少なくなっていくのに変わりはない。また従業員の定着は難しく、これから暑さが続く時期 外仕事の人手不足が予想される。	とび
製造業	新型コロナの影響で落ち込んで、回復傾向が見られない化粧品容器の受注に加え、仕入単価の値上げが進み状況はかなり厳しい。	プラスチック加工
	依然として新型コロナウイルスの影響による業績不振が継続している。併せて原材料価格の上昇傾向もあり、資金繰りの悪化も続いている。	電子応用装置製造業
	特に上海や北京のロックダウンの影響により部品がお客様に入らず、一時的にストップ状態。ほかにも材料や半導体なども入荷していない。	金属素形材製品製造業
	原材料の価格高騰、資材・原材料・半導体不足が長引くと、今後売上に大きく影響する可能性が高い。	機械・同部品製造業
	飲食店の制限解除等により売上は上昇している。今後も徐々にコロナ前に近づいていくと予想されるが、再度感染者が増加して各種措置がとられると減少になるので楽観はできない。原材料や光熱費の値上がり激しく大きく採算に影響が出ている。今後の動向に注視したい。	酒類製造業
	売上が増加しても仕入単価が毎月のように上昇していて、利益確保が困難。	金属製品
	原材料、仕入価格の高騰の中、製作施工にアイデアを提供しながら発注先とのコミュニケーション対応でなんとか継続している。	印刷業
	働き方改革は、新型コロナウイルス対応でテレワーク制度を導入したが、会社内に縛られずワークバランス対応で社員が活用している。原燃料の価格高騰に対応し、徹底した改善と効率化でコストダウンをしていくしかない。	鉄鋼業
	もともとSDGsやカーボンニュートラルの観点から省エネ対策として工場用の太陽光発電システムへの設備投資を決め、昨年度中に設置、稼働する予定だったが、半導体不足により、太陽光パネルの設置は終わっているのに、蓄電用のバッテリーが間に合わず、稼働できずに困っている。バッテリーの入荷は8月以降との連絡を業者から聞いているが、ロシア・ウクライナ情勢の悪化と長期化によって、電気代、燃料費が高騰しており、収益を圧迫し始めているので、一刻も早く入荷して欲しい。	自動車付属品製造業
	卸・小売業	食用の水産物の50%を輸入にたよる日本の水産業界において、この円安は単価を大きく押し上げ、売上こそ昨対をクリアしますが、扱い数量、利益が大幅に減少している。
原材料価格の高騰・急騰により、価格転嫁が追い付かない状況		紙・紙製品卸売業
上海ロックダウンの影響でフォークリフト業界でも新車、部品の供給がだんだんと滞って来ています。これが続くと、中古車、レンタル等に悪影響が出るので、早く解消してほしいですが、今すぐ完全に解消されても、出荷待ちの荷物が大分溜まっているらしいので、簡単には改善しなさそうです。数か月は苦しい展開が続く見通しです。		産業機械器具卸売業
例年、GW明けの売上が落ちるのですが今年の落ち幅が例年より大きく厳しい。		洋菓子店
コロナ禍も3年目となり、感染症拡大が原因での直接的な売上の減少はなく、新たな生活様式に沿った事業になっているかが課題になっている。売上自体は堅調に推移しているが、昨今の物価高騰で包装資材などの価格が思いのほか上昇している。当社商品自体の値上げはないが最終的な利益の部分は若干影響があると思う。		農畜産物・水産物卸売業
キャッシュレスが進み、現金収入が少なくなった。		洋菓子店
テナントの環境としては、原材料高騰に伴う価格改定などが発生。飲食業界は夜間需要回復が途上。		各種商品小売業

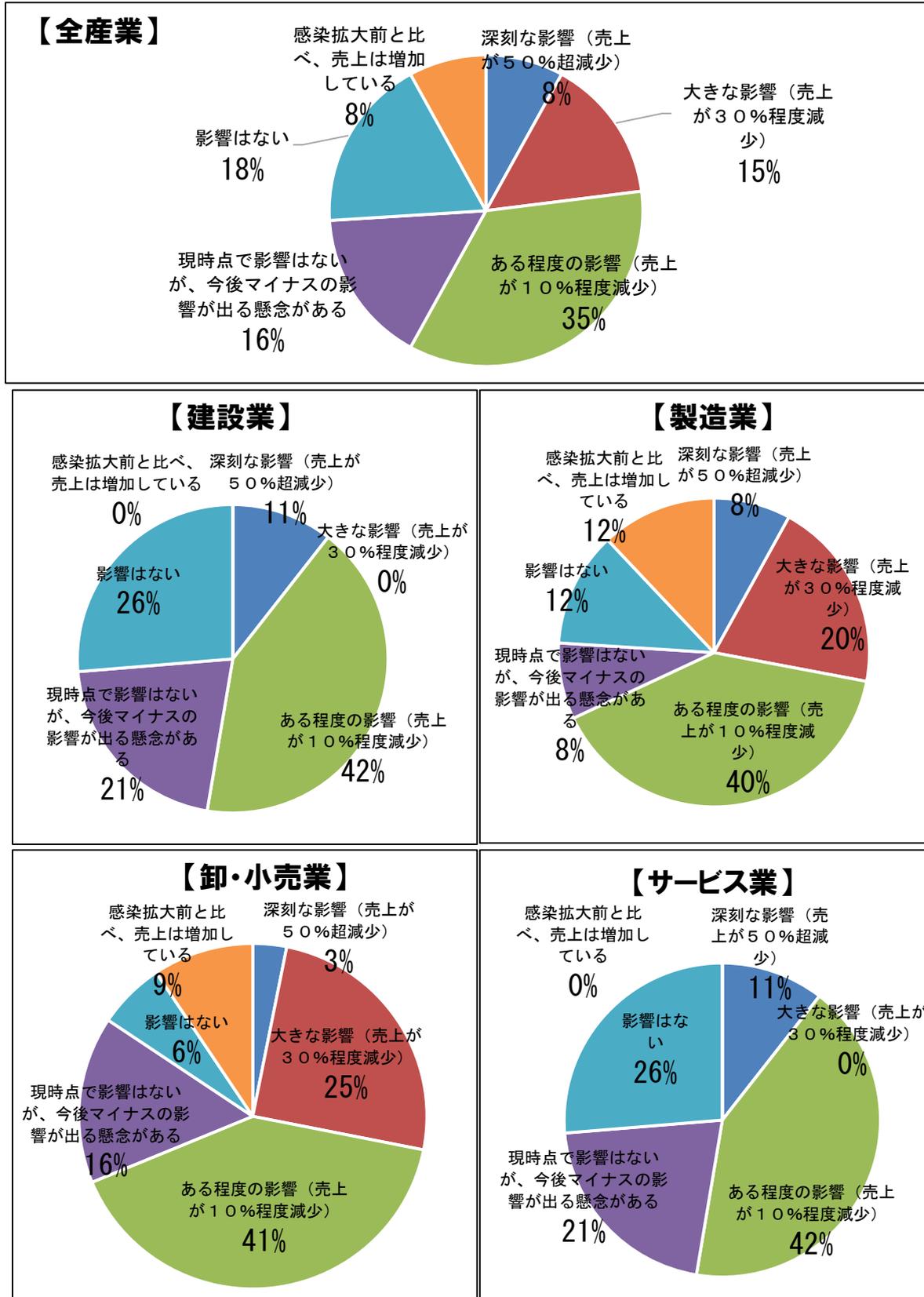
【業種別】業界内トピックス

	仕入原価の上昇は続いている。電気代の値上がりは深刻で、営業利益の確保に苦戦している。	各種食料品小売業
	仕入れ価格や光熱費等の必要経費が上りはじめ、販売価格に影響が出ている。飲食店なので多少の値上げは避けられなかった。しかし、これからが値上げの本番と言われても、どのタイミングの値上げが適正なのかわからない。	各種商品小売業
	値上げのニュースがかなり流れたが、多少の買い込みは一部のお客様にみられた。外出に対しての抵抗がなくなりつつあるので、お客様の来店時間の流れが変わってきた。	大型小売店
サービス業	地域の活気を戻すために、イベントは効果が有ると思うが、人が密になる事に抵抗感がある間は無理だと思う。ただこの状況をコロナ終息までロックダウンのようにしては、伝統的な行事・文化的な行事もなくなり、地域の繋がりすら無くなる状況を懸念している。	イベント・レンタル業
	数社の顧問業につき、安定した事業展開が継続	専門・技術サービス業
	新型コロナウイルス感染の落ち着きつつある状況から市場が活発化することが期待されるため、景況が改善すると予想	土木建築サービス業
	2024年より、運送業界にも時間外勤務上限規制が始まり、年間960時間の上限内でドライバーを勤怠管理する必要が出てくる。	一般貨物自動車運送業
	会社の接待、宴会需要はまだ戻らずコロナ前と比較するとマイナス。人手不足と席数減の影響で週末も大幅な伸びにはなっていない。原材料高も深刻。	日本料理
	2年前の4月、学校の一斉休校措置が取られ、中学入学から2か月間学校に通えなかった子どもたちが今年受験生となるが、この学年だけなかなか入塾者が増えない。受験生の授業料は全体の売り上げに大きく影響するので、今年はかなり厳しい状況が続くそう。ただ、その他の学年は例年通りに集まっているので、何とか来年の2月まで耐えしのぐしかない。	学習塾
	一部デベロッパーに柏市を任せている現状は目に余る。再開発より目先の商売をしっかりとすべき。そごう跡地、何年廃墟のままなのか。	不動産賃貸業
住設機器や資材の高騰などで建築費が値上がりしている。また、売り物件が減っているために土地価額も上昇している。目先の取引は堅調。	不動産管理業	

附帯調査結果

新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



調査要領

調査期間

令和4年5月25日 ～ 令和4年6月6日

調査対象

柏市内145事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	145	100	69.0%
建設	32	19	59.4%
製造	37	25	67.6%
卸・小売	42	32	76.2%
サービス	34	24	70.6%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				